

# 平成 2 8 年度 事業報告書

自 平成 2 8 年 4 月 1 日

至 平成 2 9 年 3 月 3 1 日

<目的及び事業> \* 定款 第3条・第4条より

(目的)

第3条 この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
- (2) 育英に関する調査研究・情報提供事業
- (3) 大学生等の人材育成活動助成事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## I. 事業の状況

### 1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業1>

#### (1) 大学奨学生<一般枠>の採用・奨学金給付

平成 27 年度に予約採用した 66 名のうち 55 名および 26 年度予約採用の一浪 16 名中 14 名が採用となり合計 69 名が平成 28 年 4 月に当財団指定大学・学部へ入学し、大学奨学生として正式採用した。(男性 29 名/女性 40 名。国立 50 名/公立 6 名/私立 13 名。) 大学奨学生<一般枠>は、総勢 210 名となり、給付奨学金総額は 1 億 6,230 万円。

大学奨学生<一般枠> 1 年生～4 年生			
H25 年 (2013 年) 入学	52 名		
H26 年 (2014 年) 入学	45 名		
H27 年 (2015 年) 入学	44 名		
H28 年 (2016 年) 入学	69 名		
総数	210 名	H28 年度給付総額	1 億 6,230 万円

## (2) 大学奨学生<芸術枠>の採用・奨学金給付

平成 22 年度募集から当財団の特色を出すための制度として芸術枠を新規導入した。指定の芸術系大学・学部へ進学を条件とする以外は、一般枠とほぼ同様の条件で募集している。平成 27 年度に予約採用した 11 名のうち 3 名、および一浪 3 名のうち 2 名の合計 5 名が平成 28 年 4 月に当財団指定の芸術系大学・学部へ入学し、大学奨学生として正式採用した。(男性 0 名/女性 5 名。国立 0 名/公立 1 名/私立 4 名。)

大学奨学生<芸術枠>は総勢 25 名となり、給付金総額は、1,900 万円。

大学奨学生<芸術枠> 1 年生～4 年生			
H25 年 (2013 年) 入学	9 名		
H26 年 (2014 年) 入学	4 名		
H27 年 (2015 年) 入学	7 名		
H28 年 (2016 年) 入学	5 名		
合計	25 名	H28 年度給付総額	1,900 万円

## (3) 大学奨学生<震災支援枠>の採用・奨学金給付

平成 27 年度に予約採用した 18 名のうち 15 名、および平成 26 年度予約採用の一浪 2 名中 2 名の合計 17 名が、平成 28 年 4 月に当財団指定の大学・学部へ入学したので、大学奨学生として正式採用した。(男性 8 名/女性 9 名。国立 13 名/公立 0 名/私立 4 名。)

大学奨学生<震災支援枠>は総勢 29 名となり、給付金総額は、2,598 万円。

大学奨学生<震災支援枠> 1 年生～4 年生			
H25 年 (2013 年) 入学	3 名		
H26 年 (2014 年) 入学	2 名		
H27 年 (2015 年) 入学	7 名		
H28 年 (2016 年) 入学	17 名		
合計	29 名	H28 年度給付総額	2,598 万円

## (4) 大学奨学生の予約採用 (平成 29 年 4 月入学)

一般枠・芸術枠・震災支援枠とも、募集を平成 28 年 6 月に行い、奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て一般枠 71 名、芸術枠 6 名、震災支援枠 21 名、合計 98 名が採用内定した。

応募資格は、当財団が指定する国公立高等学校の 3 年生で成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる人材。

採用内定者のうち、当財団指定の大学・学部へ平成 29 年 4 月に入学した者に対し、入学一時金 30 万円、月額 6 万円の奨学金を最長 4 年間支給する。

なお、採用内定者が 29 年 4 月に指定大学・学部への入学を果たせなかった場合は、一浪として平成 30 年度に指定大学・学部へ入学すれば、大学給付奨学生として正式採用される。

結果、採用内定者の平成 29 年 4 月入学者数は、以下の通り。浪人も合わせ一般枠 67 名 (現役 59 名・浪人 8 名)、芸術枠 8 名 (現役 3 名・浪人 5 名)、震災支援枠 14 名 (現役 13 名・浪人 1 名)、合計 89 名となった。

## (5) 海外留学・活動支援制度

平成 26 年度に導入、平成 27 年度より上限金額の拡大等支援の充実を図った。平成 28 年度と同制度の利用者は延べ 30 名で費用は 650 万円であった。

## (6) 大学貸与奨学生について

大学貸与奨学生については、平成 22 年度から募集・採用が終了しているため、27 年度から奨学金の支給はしていない。

昭和 40 年度第 1 期奨学生採用以来、貸与奨学金の累計は 26 億 8,171 万円である。

## 2. 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業 1>

### (1) 大学院奨学生（国内・修士課程）の採用・奨学金給付

大学院奨学生（国内）は平成 25 年度採用より当財団の大学給付奨学生に限定して募集を行い、28 年度は書類選考、選考委員面接を経て、次ページの 6 名の採用を決定した。

（男性 2 名／女性 4 名。国立 5 名／公立 0 名／私立 1 名。）

27 年度採用の 9 名と合わせて、大学院奨学生は 15 名となった。

給付金額は月額 8 万円で、期中の給付奨学金総額は 1,440 万円であった。

### (2) 大学院奨学生（外国人留学生）の採用・奨学金給付

平成 22 年度から行っていた中国からの大学院留学生の受入れは、平成 26 年度の採用をもって 5 年の協約契約期間満了となり、中国教育部との合意により終了となった。

平成 28 年度は、すでに採用されている 11 名に奨学金を給付。給付金額は月額 16 万円で、期中の給付奨学金総額は 1,536 万円であった。

### (3) 海外留学・活動支援制度

平成 26 年度に導入、平成 27 年度より上限金額の拡大等支援の充実を図った。平成 28 年度と同制度の利用者はのべ 6 名で費用は 100 万円であった。

### 3. 奨学生の研修・交流会事業 <公益事業1>

#### (1) 「奨学生の集い」の実施

「奨学生の集い」は全奨学生を対象に、奨学生の研修と相互交流および奨学生と選考委員・事務局との交流を目的に、毎年開催している。内容は前半が講演会、後半は交流会の2部構成となっている。

平成28年度の「奨学生の集い」は、11月に全奨学生、大学関係者、及び奨学生OB・OGなど約250名が参加して行われた。うち、現役奨学生は228名であった。

- <開催日・会場> 平成28年11月19日(土) 東京汐留 電通ホール
- <講師> 経済評論家 勝間 和代 氏
- <講演テーマ> 『やればできる』あなたを変える4つの力

#### (2) 大学院生セミナーの実施

大学院奨学生に対して、8月にセミナーを実施した。このセミナーは大学院奨学生(国内/大学院留学生)の研修と交流を目的とするもので、研究紹介、外部講師の講演、交流会の構成となっている。大学院奨学生13名と大学院留学生10名の23名が参加し、研究紹介、グループ討論等の中で、奨学生相互の研鑽と親睦が図られた。

- <開催日・会場> 平成28年8月6日(土)、7日(日) クロスウェーブ幕張
- <講師> (株)電通 第5CRプランニング局 戦略クリエイティブ・ディレクター 有利 英明 氏
- <講演テーマ> 「多様性社会の中の『伝えるコツ』」

#### (3) 大学生セミナーの実施

大学奨学生の1年生83名、2年生50名と3年生41名(計174名)が参加して、平成28年9月にセミナーを一泊二日で実施した。セミナーは学年別研修で、それぞれ経験豊かな講師によって行われた。また、1年生と2年生の混成によるグループディスカッションや奨学生間の交流も図った。

- <開催日・会場> 平成28年9月3日(土)、4日(日) 湘南国際村センター
- <内容と講師> ・1年生対象「ロジカルコミュニケーション・スキルとプレゼンテーション・スキル」の研修(アイディア社 西田氏・影山氏)
- ・2年生対象「課題解決力養成研修」(法政大学 児美川教授)
- ・3年生対象「自己分析とキャリア研修」(我究館 熊谷館長)

#### (4) 修了生交流会の実施

平成28年度卒業・修了予定の大学・大学院奨学生の今後の活躍を期待して、当財団の選考委員や大学関係者など来賓出席のもと、平成29年3月11日(土)に帝国ホテルにて「修了生交流会」を開催した。

## 4. 育英に関する調査研究・情報提供事業 <公益事業1>

### (1) 会報誌「IKUEI NEWS」の発行

「大学の今がわかる情報誌」として、高等教育関係者や奨学生への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を年間4回（4月、7月、10月、1月）発行した。奨学生（OB、OG含む）、大学関係（教育研究者、学長室、学生部）、全国の図書館、教育研究機関などを配布先とし、毎号企画の充実を目指した。（各号約4,000部配布）

	発行月	特集テーマ	取材大学
Vol. 74	平成28年4月	大学時代から運動を習慣づける	上智大学 他
Vol. 75	同 7月	現代若者の恋愛・結婚事情	小樽商科大学 他
Vol. 76	同 10月	大学生研究フォーラム2016	—
Vol. 77	平成29年1月	「資格」と正しく向き合う	愛知県立芸術大学 他

### (2) 大学生研究フォーラムの開催

大学生研究の深化と課題発見のため、京都大学高等教育研究開発推進センターと東京大学大学総合教育研究センターとの3者共催で、8月25日（木）に京都大学百周年時計台記念館にて、高校・大学の教員、研究者など300名余の参加のもと第9回大学生研究フォーラムを開催した。フォーラムでは、「経験で終わるな、メタに上がれ！ーわたしのメタラーニング宣言ー」をテーマに、基調講演や事例報告などが行われた。

また、前日8月24日（水）には、プレワークショップとして音楽座ミュージカルによる「教員のための表現力向上ワークショップ」も約100名が参加し開催された。

### (3) 大学生のキャリア意識調査等の実施

- ・京都大学 溝上研究室と2007年、2010年、2013年と3年毎に実施してきた「大学生キャリア意識調査」を2016年11月～12月に全国の大学1年生と3年生を対象に実施した。調査手法はインターネット調査、2000名の学生から回答を得、当財団ホームページにて公開した。
- ・法政大学 児美川研究室と2014年から2017年2月にかけて実施してきた「電通育英会の大学給付奨学生OBOGキャリア調査」が終了した。

## 5. 大学生等の人材育成活動助成事業 <公益事業2>

### (1) 助成事業

平成27年10月に首都圏エリア（1都3県）の非営利組織を対象として活動計画を広く募集し、平成28年2月に助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行った。

平成28年度は応募総数32件から選考された以下の11団体による学生などを対象とした人材育成活動に対して、1年間の資金助成を行った。

<選考基準> 大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

**(助成金額 100 万円)8 件**

NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク	NPO 活動の広報支援に向けたプロモーション映像制作と NPO 映画祭の企画運営と参加
公益財団法人 ジェスク音楽文化振興会	第 37 回霧島国際音楽祭 2016
日本 YWCA ひろしまを考える委員会	ひろしまを考える旅 2016
NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	公立学校無料出張講演事業&国際理解教育ユースファシリテーター育成事業
NPO 法人 僕らの一歩が日本を変える。	若者と政治に新しい出会いを届ける「票育」プログラム
NPO 法人 POSSE	高校・大学における労働法教育事業
NPO 法人 ReBit	LGBT 教育におけるリーダー育成
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター	東日本大震災復興支援プロジェクト「三陸つばき」

**(助成金額 50 万円)3 件**

学生団体 GEIL	学生のための政策立案コンテスト
東京理科大学 機械工学研究会 TUS Formula Racing	学生フォーミュラプロジェクト
立教大学 コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援プロジェクト	石巻 女川ツアー ・ 石巻交流プログラム

**(2) 平成29年度助成団体の募集・採用**

平成 29 年度は、これまでの助成金額枠を上限 100 万円に一本化し、「大学・学生枠」と「一般枠」を設けて募集した。応募総数 49 件から助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行い、以下の 13 団体の活動を採択した。なお、平成 28 年度助成対象で、平成 29 年度も助成対象として継続採択された団体は 4 団体となった。

**(大学・学生枠)7 件**

学生団体 GEIL	学生のための政策立案コンテスト
NPO 法人 サイエンスリンク	サイエンスリンクフェスタ
東洋大学 加子母 木匠塾	学生による地産材を利用した体験型木造建築実習
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター 「チーム・オレンジ」	学生の力を活用した東日本大震災復興支援プロジェクト
まつだい早稲田じょんのびクラブ	十日町市松代・早稲田交流プロジェクト
立教大学コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援プロジェクト	陸前高田交流プログラム、気仙沼・大島交流プログラム、いわき交流プログラム
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター	気仙沼における復興支援と地域・コミュニティーづくり (早稲田大学気仙沼チーム)

**(一般枠)6 件**

NPO 法人 エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ	海外高校生と日本人高校生による国際フォーラム及び国際交流フェア
NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム	The 8th CanSat Leader Training Program
一般社団法人 日本学生会議所	大使館・国会議員インターンシップ派遣事業、講演会・シンポジウムの企画運営活動
NPO 法人 BOON	こんぺいとうゼミ ～教員志望の人材育成講座～
認定 NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	国際理解教育ユースファシリテーター育成事業
NPO 法人 ユースコミュニティー	学習支援を通じた社会貢献に取り組む学生ボランティアのリーダー育成プロジェクト